



## 福島っこ種子島へ、うみがめ祭り参加ツアー活動報告書

NPO 法人オンザロード福島支部

活動日 平成 24 年 7 月 30 日～8 月 2 日



### 【基本情報】

□日時:平成 24 年 7 月 30 日～8 月 2 日

□引率場所:鹿児島県種子島中種子地区 宿泊先:中種子地区社会福祉人材センター

□受益者:福島県在住の子どもたち 12 名(未就学 1 名小学 1 年生 1 名・小学 4 年生～小学 6 年生)、引率者 5 名、保護者 1 名

□参加料:5,000 円・保護者自己負担

□開催 イベント主催/発起人:久米満晴(うみがめ写真家)・うみがめ祭り実行委員会

□引率団体:NPO 法人オンザロード福島支部

## 【活動概要】

現在福島県に住む子どもたちの野外活動時間は、制限がかけられており、外で遊ぶ事はもちろん、学校での野外活動も限られているのが現状です。しかしながら、子ども達にとって、日々の生活の中で思い切り体を動かし、のびのびと遊ぶ事は必要不可欠です。

福島県の子どもたちは、その当たり前前の日常生活が送れておらず、体力的な成長面、将来性を考えたうえで大きな問題となっております。

そこでオンザロードでは、今の福島では体験できない外遊びを企画・提供して楽しんで頂くことで少しでもストレスの軽減を計っていけるよう福島県在住の子どもたちへの支援を継続して行っています。

今回引率した種子島うみがめ祭りは、昨年オンザロードで開催した復興祭(F-WORLD2011)の際にトークライブに来て頂いた写真家でもあり、日本うみがめ協議会にも所属している久米満晴さん、うみがめ祭り実行委員会の方々のご好意により福島県の子ども達を招待して頂きました。

うみがめ祭りでは海亀の希少さを考えると共に、福島県の子ども達、種子島の地元の子ども達のふれあいや、福島ではなかなか体験することの出来ない自然の遊び等、夏休みを利用し思いっきり遊んでもらい、沢山の思い出を作ってもらいたいとの思いから、企画・運営を協働で行う運びとなりました。



## 【活動詳細】

### 7月30日 1日目

朝6時に福島を出発し、成田空港から飛行機にて15時鹿児島県に到着。初めての飛行機体験となった子ども達も多く、飛行機内は大騒ぎでの到着。その後高速船で移動し、18時に種子島へ到着となりました。1日目は移動で終わってしまいましたが、到着後の種子島では綺麗な夕日を見みんなで見る事ができ、一同感動しました。また、美味しい夕食時、普段福島ではなかなか飲めない牛乳で「乾杯」と楽しい時間を送りました。



### 7月31日 2日目

台風が近づきつつある状況で、急遽朝から波の立たない海岸での海水浴となりました。放射能があり福島の家では泳げない子ども達は開放されたかのように、自由に笑顔で泳ぎ、見ているこちらにも笑顔になります。磯遊びも、初体験の子どもが多く、綺麗な魚が目の前にいる素晴らしさに感動していました。



お昼からは、予定していた海辺でのうみがめ祭りは開催出来ず、福祉施設をお借りしてのうみがめ祭り開催となりました。会場ではワークショップ・フラダンス・ふれあいゲーム・音楽ライブが行なわれ、楽しい時間を過ごしました。また、高橋歩トークライブでは旅のお話や福島の現状を話され、福島の子どもの質問タイムも入れたり、楽しい時間を送ることが出来ました。



うみがめ祭りも終わり、夕方には近くのマングローブにカヤック体験へ行きました。本来ならば、海へ行くシーカヤック体験ではありましたが、マングローブも素敵な場所でした。皆初めて体験に子ども達も大喜びでした。川へ飛び込む子どももいたり充実した1日となりました。



### 8月1日(3日目)

台風10号の上陸を目前に、午前中は種子島宇宙科学センターへ見学に行きました。生憎、入館30分で閉館されてしまいましたが(台風の為)、子ども達は宇宙の学習を楽しんでいました。



午後は台風が強く、外では遊べる事が出来ませんでした。宿舎に戻りワークショップやボール遊びをして楽しみました。また、お誕生日のお友達がいたので、女の子チームではケーキ作りを行ないました。

夕方には種子島にあるスケートボードショップにてスケートボード体験を行ない、夜にはお誕生会やスイカ割りなどを行ないました。

寝る前には、うみがめ写真家である久米満晴様のスライドショーを鑑賞し、うみがめの生態をわかりやすく説明して頂きました。子ども達も真剣な表情で、時折笑いながら楽しく聞いていました。



8月2日(4日目)

早朝5時に起床し、うみがめを探しに種子島の海岸へ行きました。生憎、うみがめには会う事が出来ませんでしたが、波打ち際で海遊びをしたり、砂でうみがめを作り記念撮影をしました。最終日、最高の笑顔で良い思い出を作ることが出来ました。



その後、久米満晴様を始め、うみがめ実行委員会の方々と別れをし、再び福島に向かい高速船へ乗り込み福島までの帰路を辿りました。

### 【活動の成果】

普段から放射能の影響を受けないような生活を強いられている子ども達が、開放されたかのように種子島で無邪気に遊び、屈託の無い笑顔を見せてくれました。このような姿は、原発事故まえではごく自然なよくある風景でした。しかし現在の子ども達は既に放射能を受けないような生活が身に付いています。食べ物にも気をつけ、遊ぶ場所や時間にも気をつけなければならない福島の現状から開放された事により、一時でもリフレッシュが出来た事が今回の大きな成果と考えております。

「牛乳がおもいきり飲める!!」と、種子島産の牛乳を喜んで乾杯する姿は、印象に残るシーンでした。福島を次を担う子ども達の為に、頑張りたいと思います。

### 【今後の活動】

放射能と共存しなければならない現状において、オンザロード福島支部では保養支援やワークショップなどで、子ども達のストレス軽減や親御さんが抱える問題の相談窓口として、引き続き活動していきたいと考えます。

また、これらの活動と並行して、放射能を気にする事無く、元気にスポーツが行なえる「屋内複合スポーツ施設」の建設に向け活動していきます。